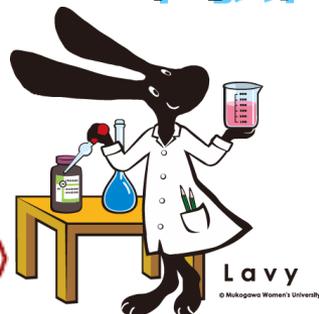




# 被服教育における「基礎縫い」デジタル教材の 開発とその効果

武庫川女子大学 生活環境学部 生活環境学科

末弘由佳理 本田クミ 大西かおり 中尾時枝



# 「家庭科」授業時間数の変遷

改訂年	小学校			中学校				高等学校		
	5年	6年	計	1年	2年	3年	計	標準単位数		
昭和33年 (高校は35年)	70	70	140	技術・家庭 女子向き	105 105	105 105	105 105	315 315	家庭一般 (女子のみ)	4単位
昭和43年 (中学は44年) (高校は45年)	70	70	140	技術・家庭 女子向き	105 105	105 105	105 105	315 315	家庭一般 (女子のみ)	4単位
昭和52年 (高校は53年)	70	70	140	技術・家庭 家庭系列	70 70	70 70	105 105	245 245	家庭一般 (女子のみ)	4単位
平成元年	70	70	140	技術・家庭 家庭系列	70 35	70 35	70-105 35-52.5	210-245 105-122.5	家庭一般・生活一般・ 生活技術から選択	4単位
平成10年 (高校は11年)	60	55	115	技術・家庭 家庭分野	70 35	70 35	35 17.5	175 87.5	家庭基礎・家庭総合・ 生活技術から選択	2又は4単位
平成20年 (高校は21年)	60	55	115	技術・家庭 家庭分野	70 35	70 35	35 17.5	175 87.5	家庭基礎・家庭総合・ 生活デザインから選択	2又は4単位

# 学習指導要領の改訂 「被服製作」の減少

平成10年告示

中学校  
「被服製作」選択科目

高等学校  
「家庭基礎」新設

中高で全く「被服製作」を履修しない生徒が存在する

平成20年度告示

中学校  
「被服製作」必須科目に戻る

平成14年度～23年度において「被服製作」が選択科目

現大学生(2回生以上)

中高で被服製作を全く履修しない生徒が居る

# 被服構成学実習関連科目で扱う作品 基礎科目である2科目の作品

所属	科目名	
	アパレルコンストラクション実習 I	アパレルコンストラクション実習 II
短期大学部 生活造形学科 アパレルコース	裏付セミタイトスカート ノースリーブワンピース	長袖ブラウス パンツ
生活環境学部 生活環境学科	裏付キュロットスカート 長袖ブラウス	裏付ノースリーブワンピース



# デジタル教材の必要性

未体験者が存在する中での被服系大学での授業の現状

## 製図、縫製の学習

- ・理解に時間を要する傾向
- ・理解力に学生間の差が大

初期の段階でのつまづき  
⇒被服製作嫌いが増加

「製図」  
デジタル教材の開発

## 学生への調査の結果

- 「理解が深まった」59%  
⇒ 自身で学習することでより身に付く
- 「確実に身に着けるための学習回数」  
2回以上 93%  
⇒ 繰り返し学習の重要性

デジタル教材は**有用な教材**

「基礎縫い」デジタル教材(e-learning教材)の開発

# 「基礎縫い」教材のデジタル化

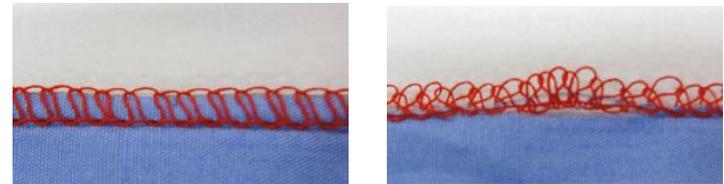
## 動画

(家庭用)ビデオカメラ



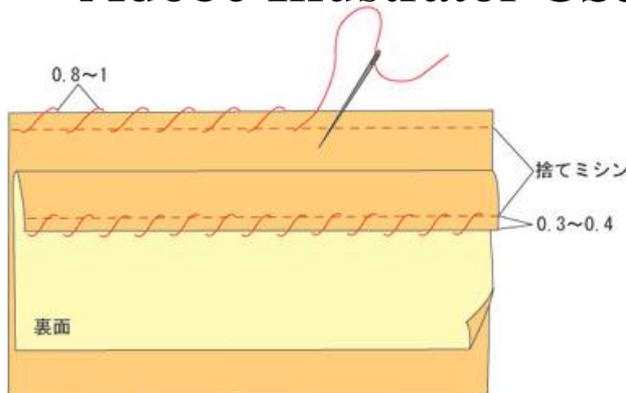
## 写真

(家庭用)デジタルカメラ



## イラスト

Adobe Illustrator CS3~6



## 音声

ICレコーダー



# μ Cam「基礎縫い」デジタル教材画面

## INDEX

21種の技法

テキスト或いはイラストをクリックすると教材画面に移行

基礎縫い



並縫い



ぐし縫い



本返し縫い



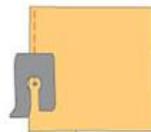
半返し縫い



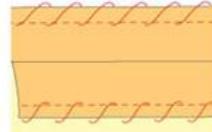
しつけ



千鳥掛け



端ミシン



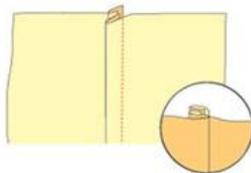
裁ち目かがり



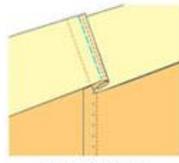
ロックミシン



ブランケットステッチ



袋縫い



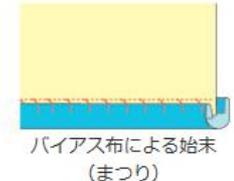
折り伏せ縫い



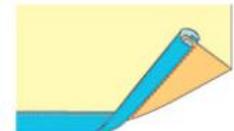
流しまつり



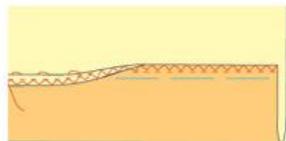
バイアス布の裁ち方



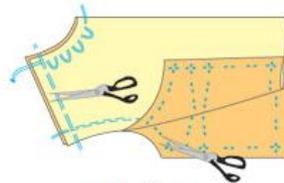
バイアス布による始末  
(まつり)



バイアス布による始末  
(落としミシン)



奥まつり



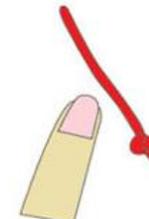
切りじつけ



玉留め



玉結びA



玉結びB



# μ Cam「基礎縫い」デジタル教材画面

本返し縫い

目次へ



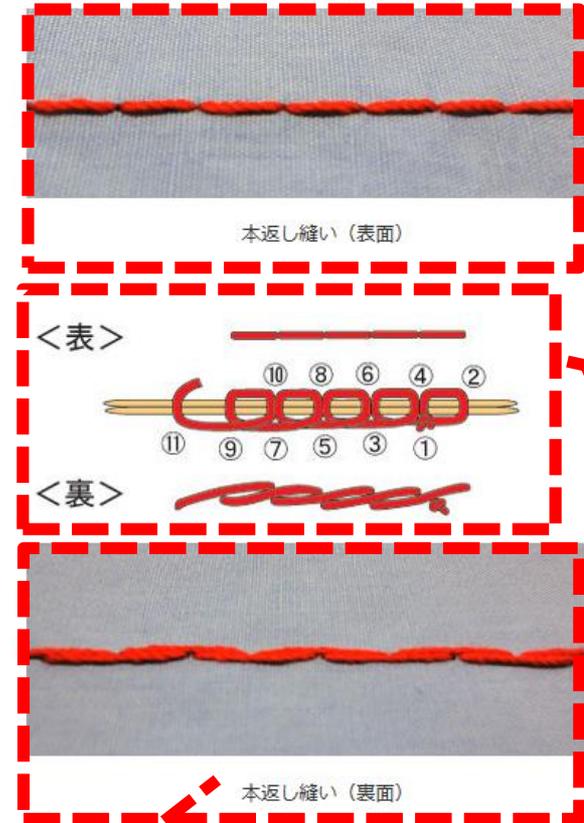
## 動画で縫製方法を解説

「一時停止」「再生機能」を用いて自身のペースでの閲覧可能

縫目の補強や縫い始め、縫い止まりの糸がほつれないようにするために用いる。  
縫い進みながら1針前の針目まで返して縫う。

## テキストによる解説

縫い方や使い方等を解説、音声と同様の内容



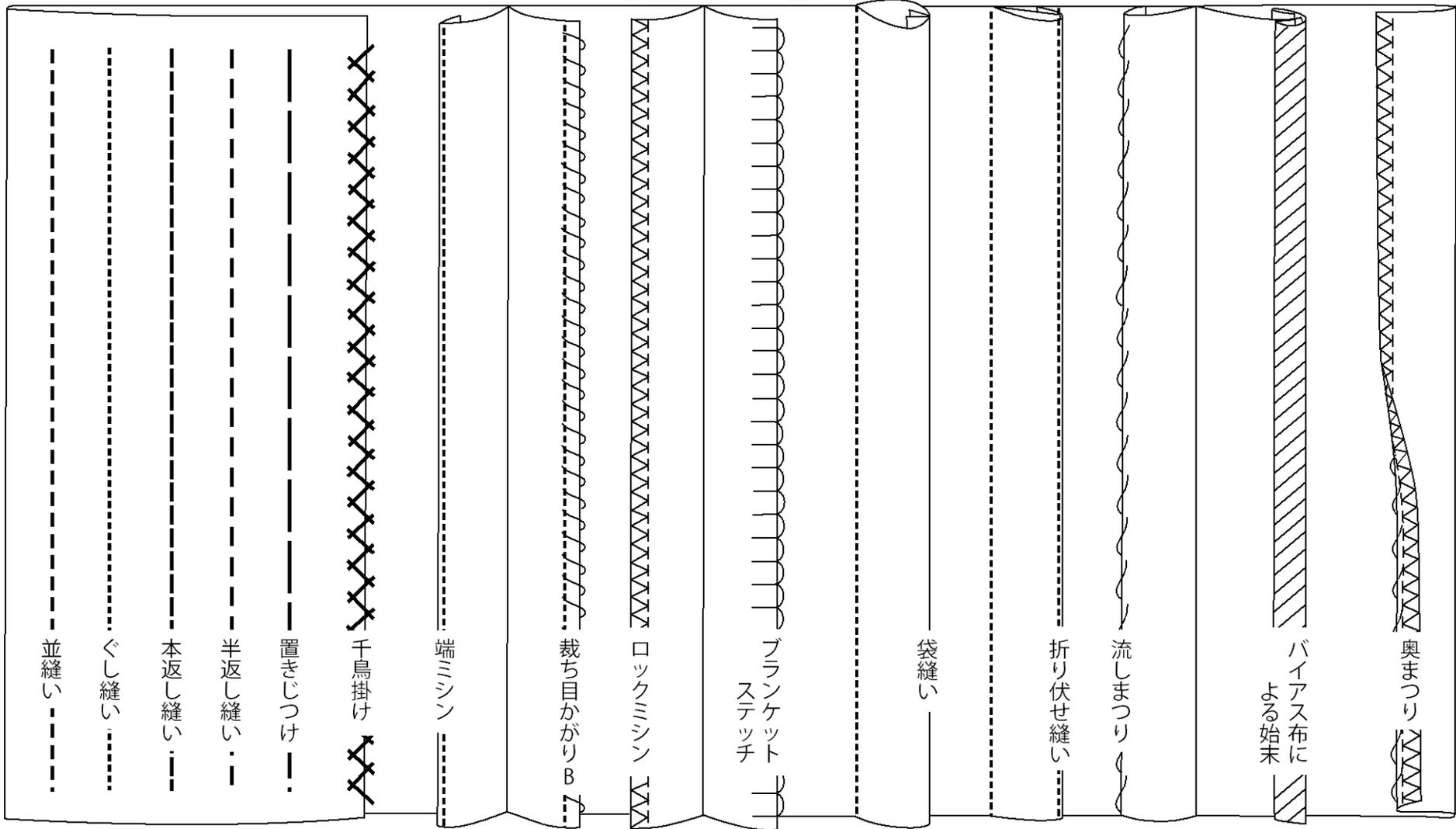
## 写真による図解

仕上がり写真や、良い例・悪い例等



# 「基礎縫い」課題

## 15種の技法



# 3つの補助教材 デジタル教材

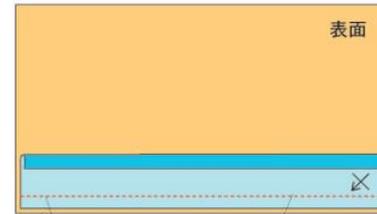
バイアス布による始末（落としミシン）

[目次へ](#)



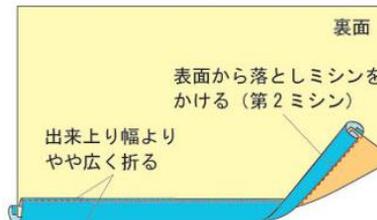
バイアス布の裁ち方

アイロンで折る



緑どり幅にミシン  
（第1ミシン）

バイアステープ  
（裏面）



表面から落としミシンを  
かける（第2ミシン）

出来上り幅より  
やや広く折る



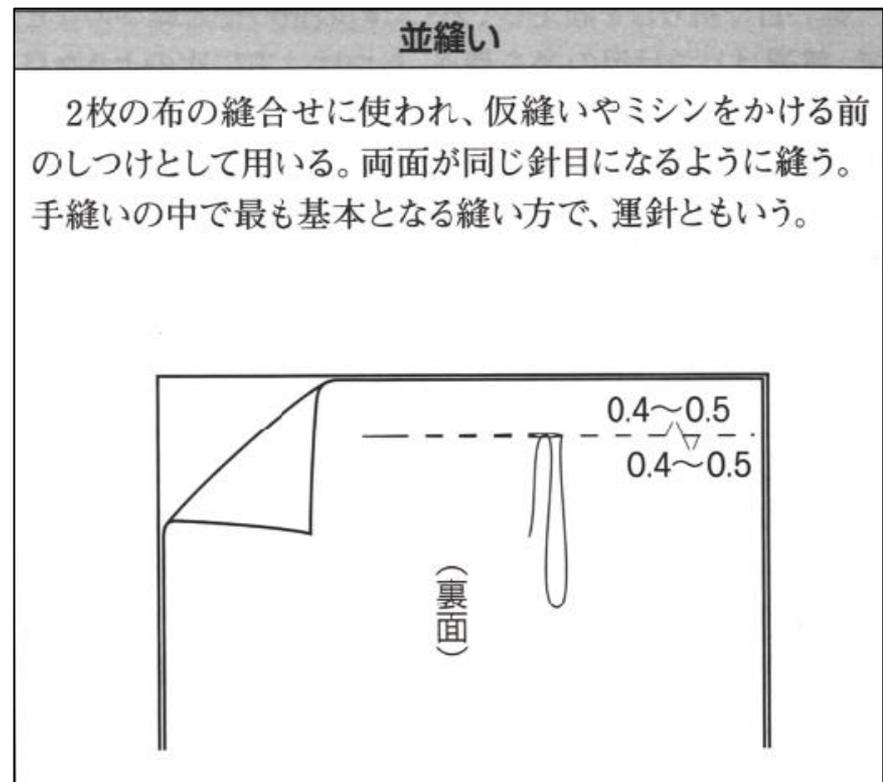
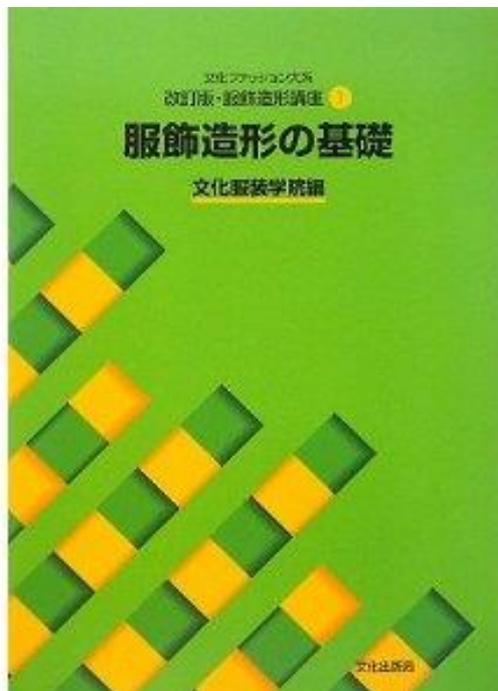
裁ち端がほつれないようにバイアステープ（45度）で細くくむ方法。ウール地の裾の折り代の端、裏布がつかない一重仕立てのジャケットなどの縫い代の始末に用いられる。また装飾的に衿やポケットの周囲、衿ぐり、袖ぐりなどにも幅や色、素材などを変えて使われる。

バイアステープの幅を緑どり幅×4+0.5cmとして、幅を伸ばさないように押さえアイロンで緑どり幅の内側に折る。布と中表になるように合わせ、緑どり幅にミシンをかける（第1ミシン）。裏面の出来上り幅よりやや広く布を折って縫い代を包み込み、表面から落としミシンをかける（第2ミシン）。

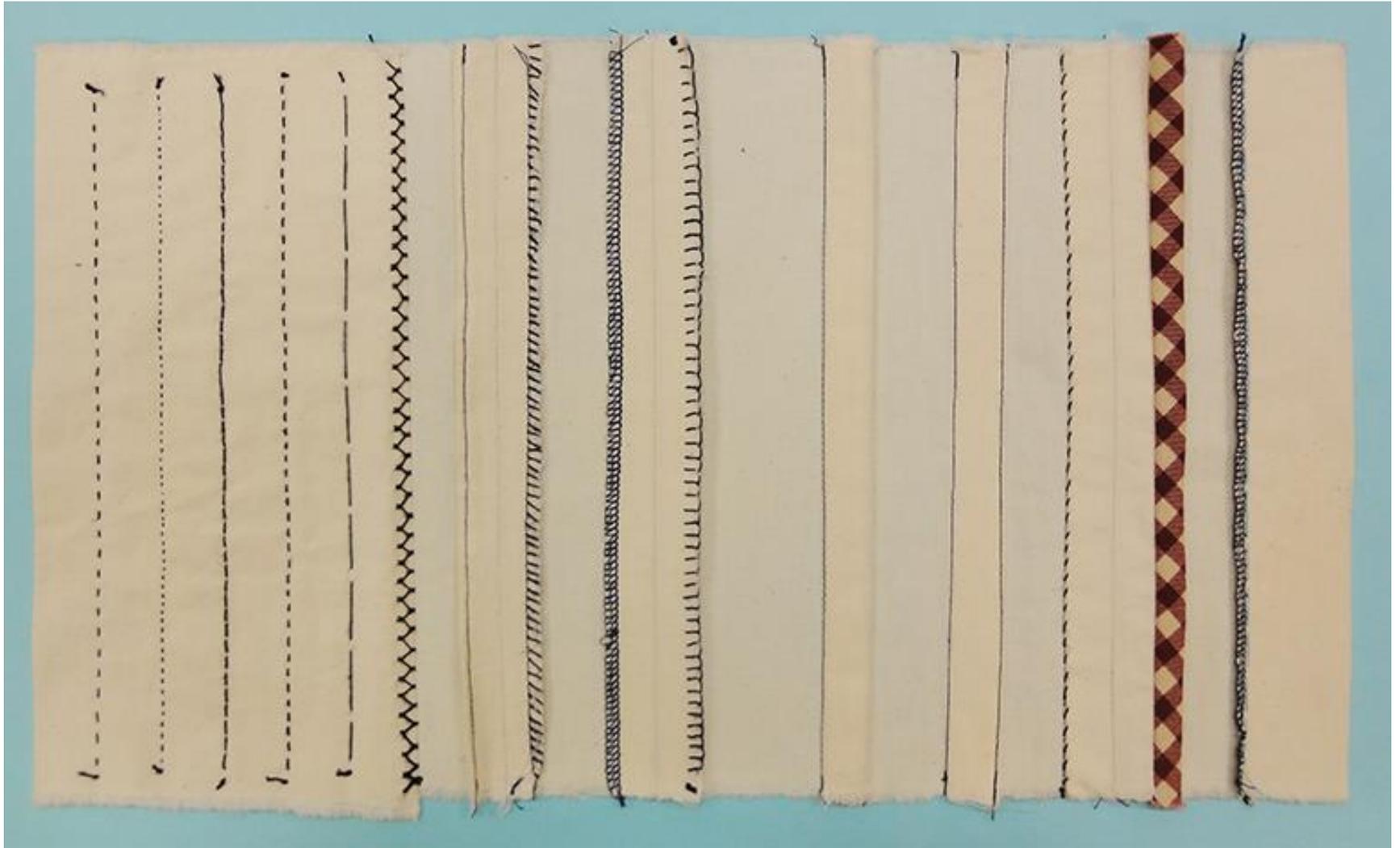
# 3つの補助教材 テキスト

文化出版局

服飾造形講座① 『服飾造形の基礎』



# 3つの補助教材 完成見本



# 「基礎縫い」デジタル教材 学習効果に関する調査

各自が基礎縫い課題(全15種)をこなす

## アンケート対象

武庫川女子大学

生活環境学部生活環境学科, 短期大学部生活造形学科  
「アパレルコンストラクション実習 I」受講者 334 名

## 実施時期

2013～2015年4～7月

## 調査内容

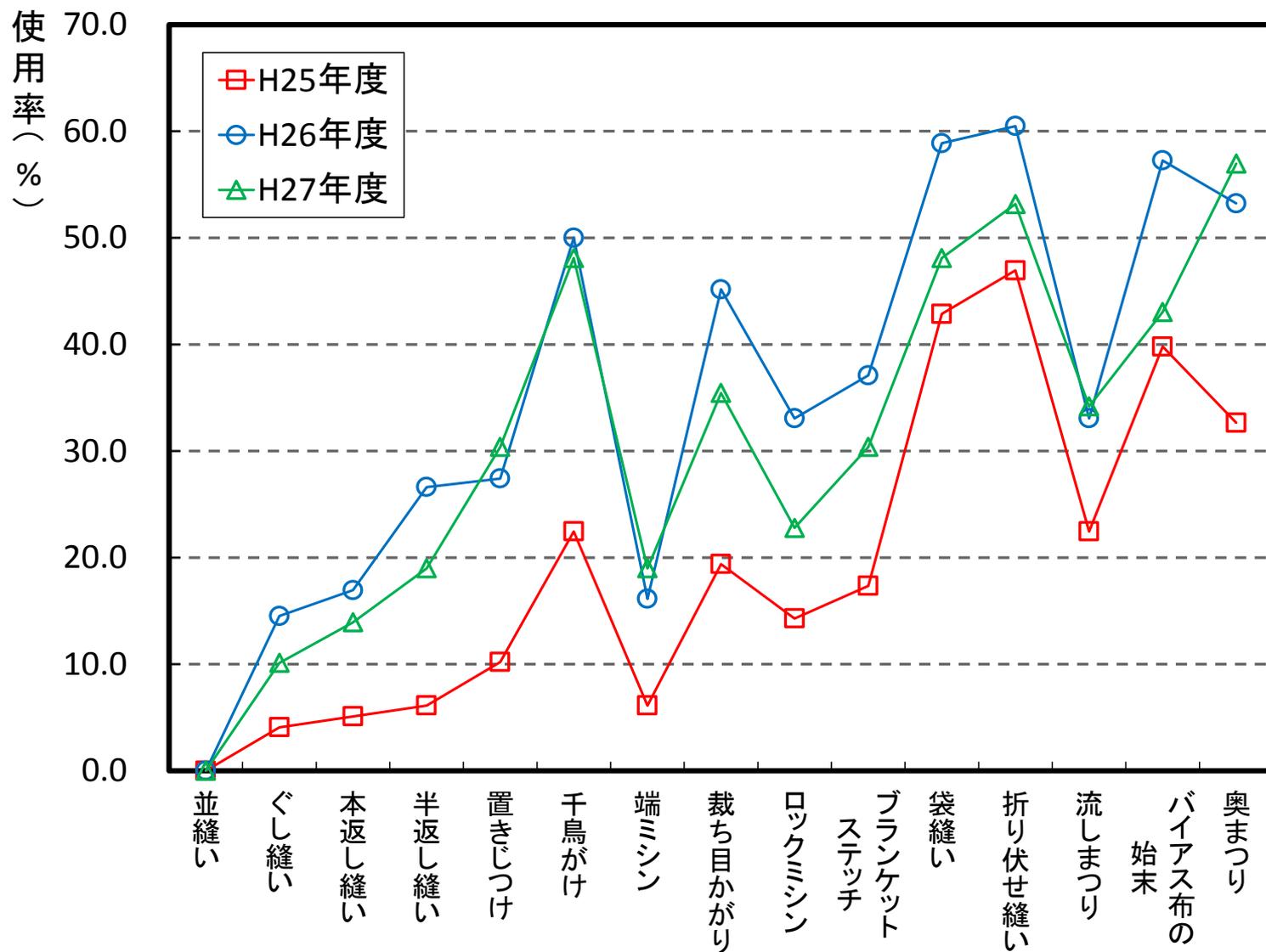
「基礎縫い」デジタル教材の理解度

### 5段階評定

「非常に分かりやすい」「分かりやすい」「どちらでもない」  
「分かりにくい」「非常に分かりにくい」

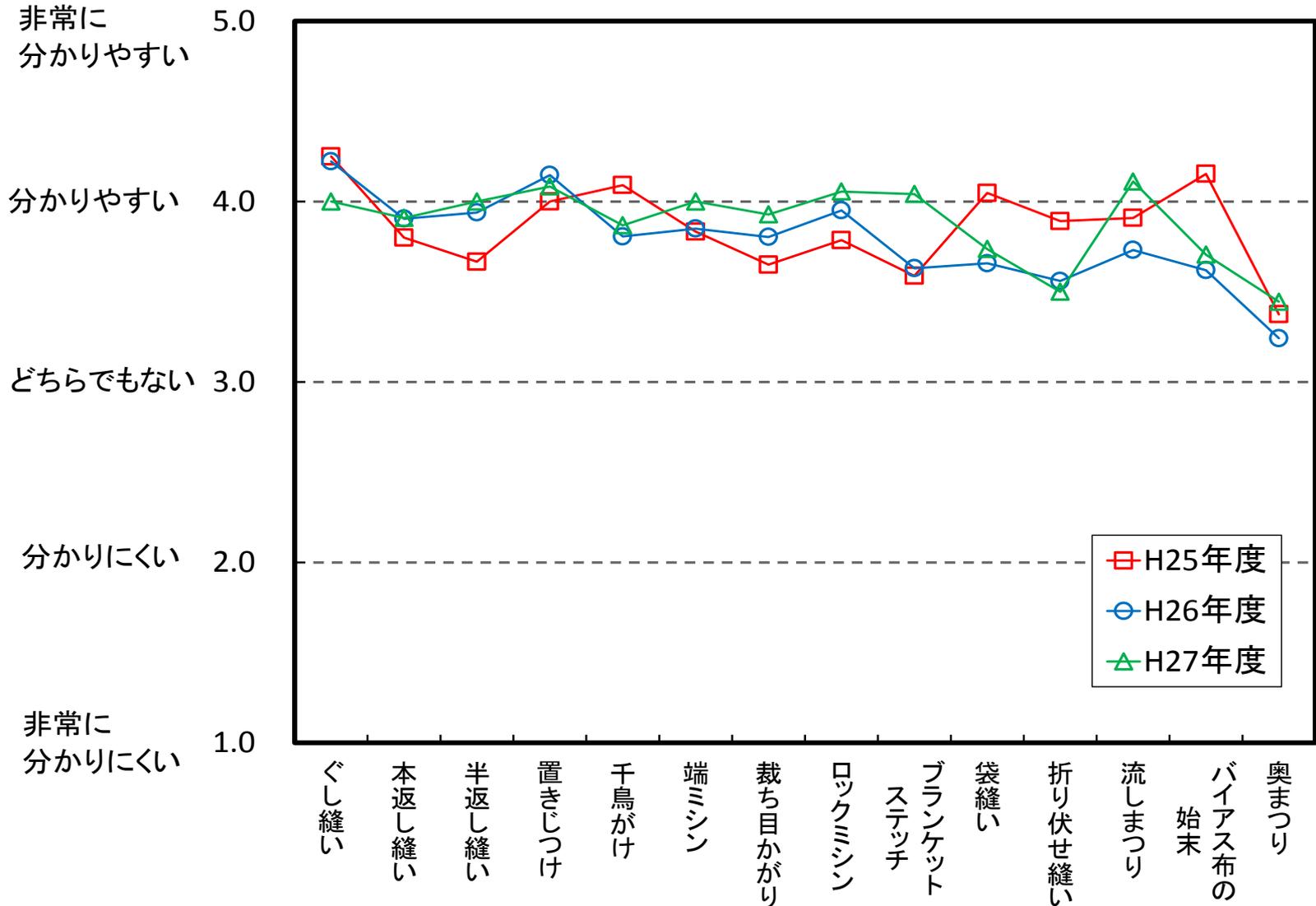


# アンケート結果 「基礎縫い」教材の利用

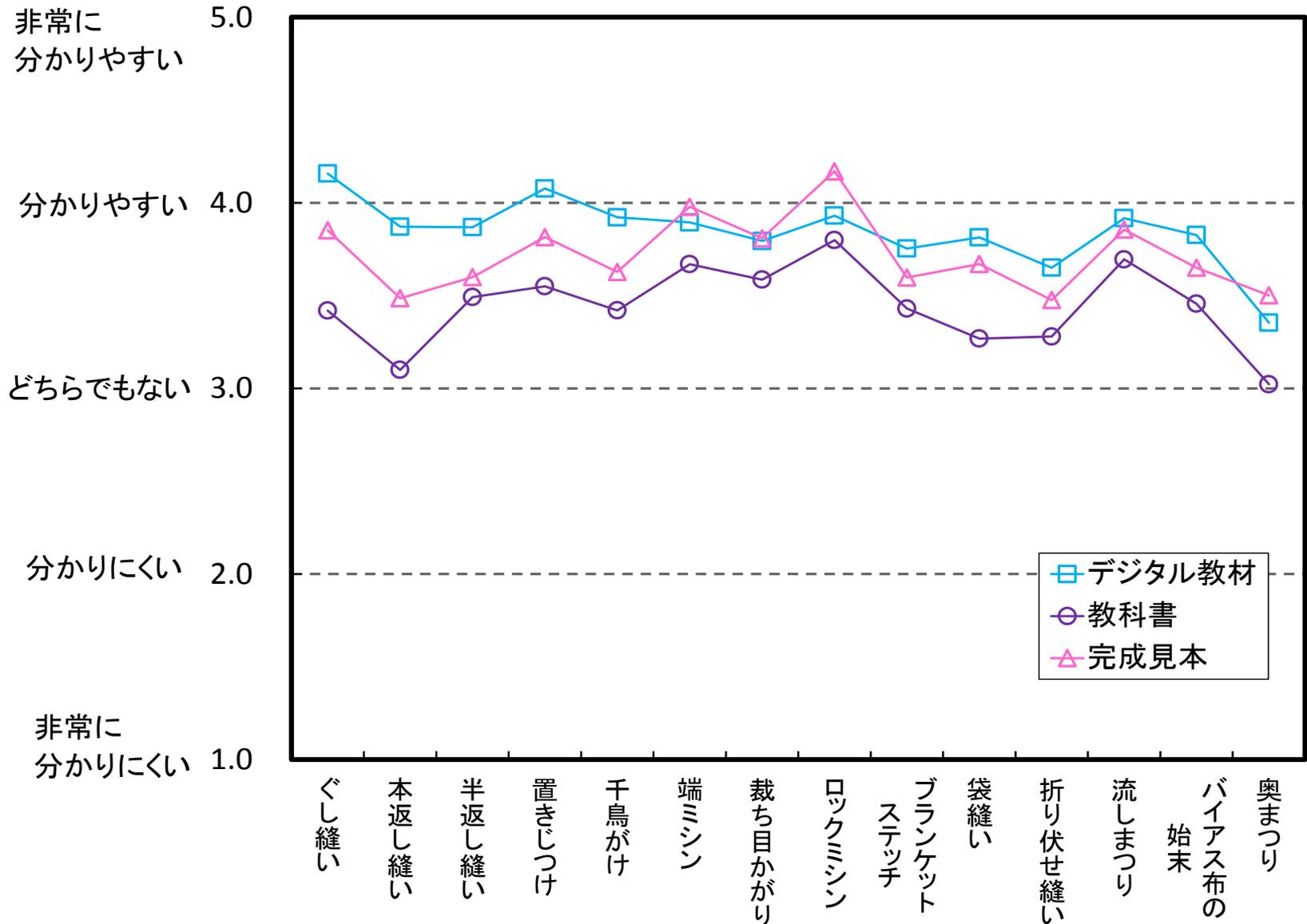


# アンケート結果

## 年度別「基礎縫い」デジタル教材の分かりやすさ

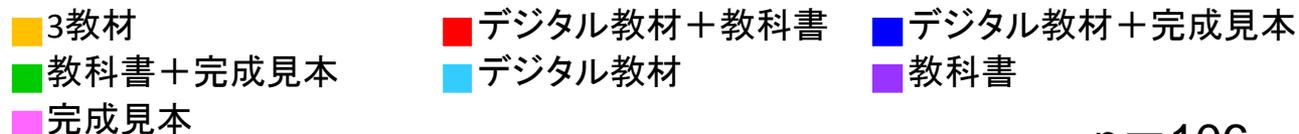


# アンケート結果 補助教材の分かりやすさ

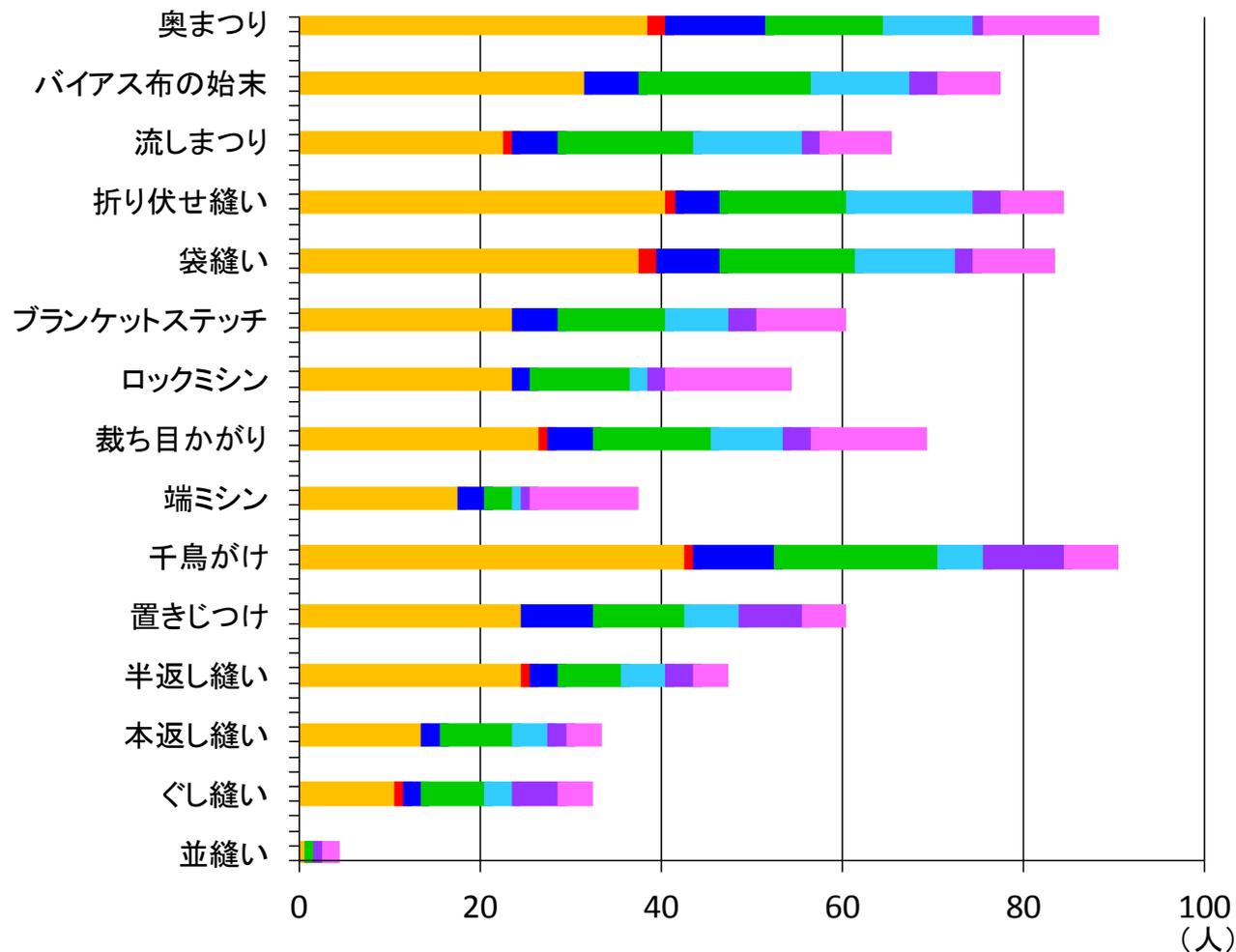


# アンケート結果

## 「基礎縫い」課題 使用した教材



n=106



# 「基礎縫い」デジタル教材 衣服作品の完成度への影響

作品の添削結果をデジタル教材有無間で比較

## 調査対象

武庫川女子大学

生活環境学部生活環境学科

「アパレルコンストラクション実習Ⅰ」受講者 109名

## 実施時期

2011～2013・2015年6～7月

\* デジタル教材有無は各2か年

## 調査内容

完成作品の修正を要する箇所

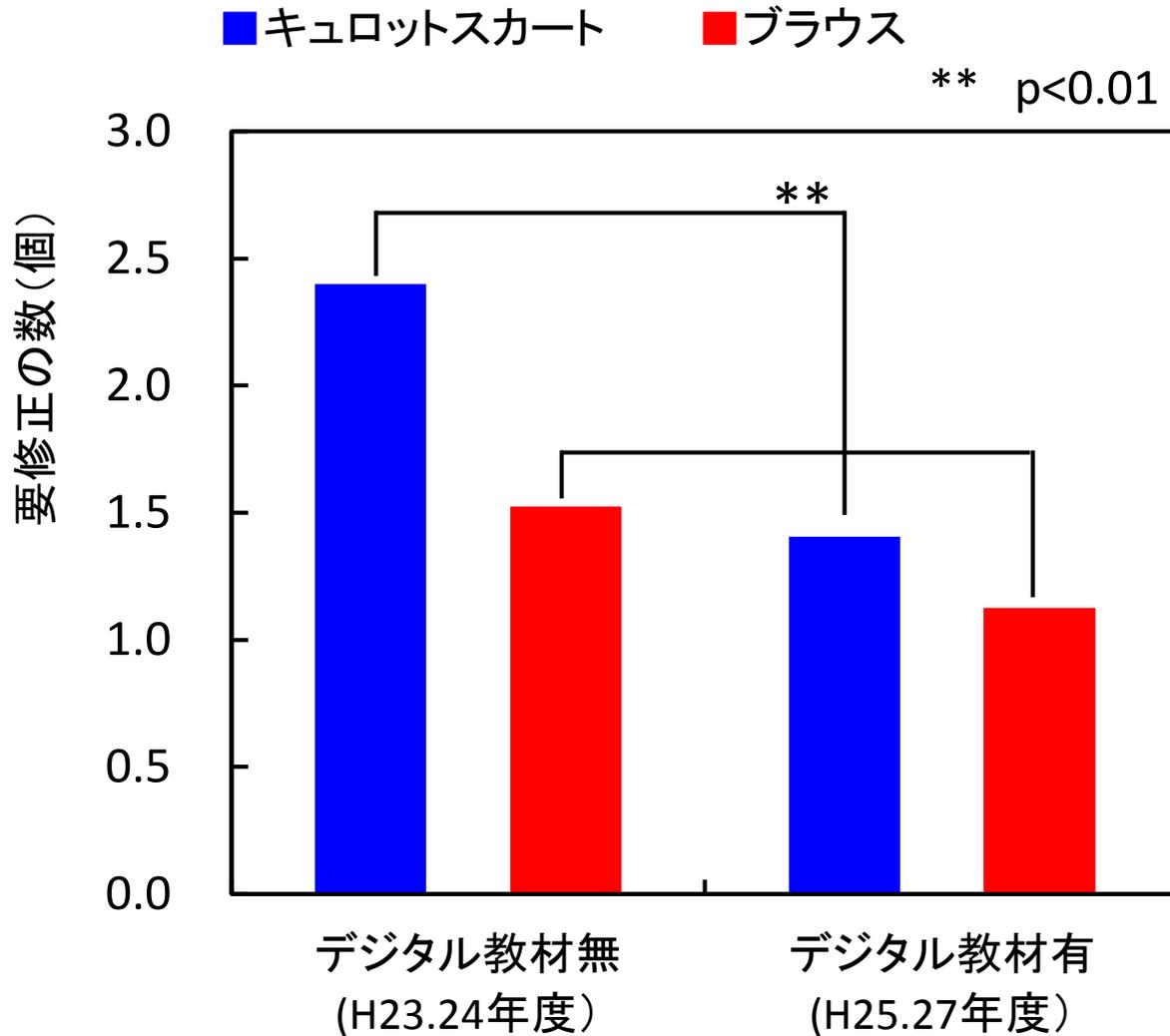
## 解析方法

t 検定



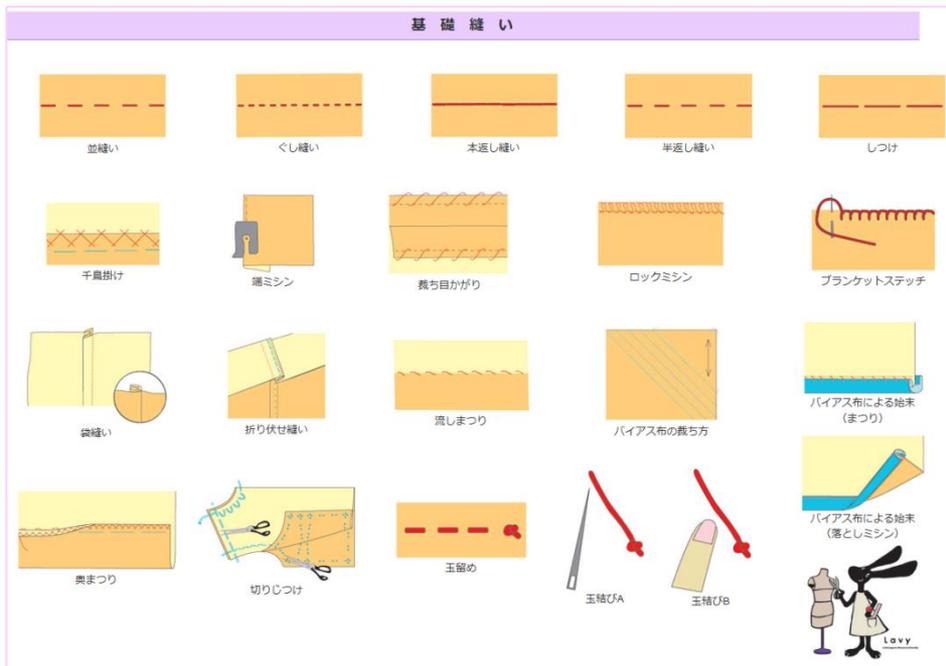
Lavy  
© Misogawa Women's University

# 添削結果 デジタル教材有無 要修正数





# 新旧「基礎縫い」デジタル教材 コンテンツの追加



21種 ⇒ 27種

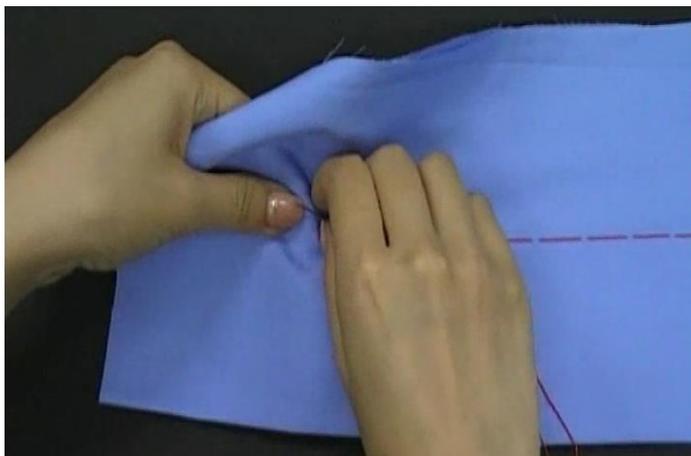
新規に6種導入

- バイアステープの始末(端ミシン)
- 待ち針の打ち方
- ボタンのつけ方
- スナップのつけ方
- ホックのつけ方
- 糸ループ

# 新旧「基礎縫い」デジタル教材 素材の変更

しつけ

目次へ



置きじつけ (表面)



置きじつけ (裏面)

ミシンをかける前に布がずれないように止めたり (置きじつけ)、仮縫い合わせのときに縫い代を押さえて落ち着かせたり (押さえじつけ)、襷上げなどの折り代を押さえて、作業をしやすくするとき用いる。硬い台の上に布を置き、布がずれないように針を直角に刺して1針ずつすくい、糸がつかないように注意する。

一般に大小の針目で縫い、表面に大きい針目2~3cm、裏面に小さい針目0.2~0.3cmが出るように縫う (一目落とし縫い)。

しつけ縫いには目的に応じて斜めじつけ (裏つきの仕立てに用いられ直線のしつけよりずれにくい) や巻きじつけ (テーラールカラーのラベルや上袴の返り線など、外まわりのゆとりを落ち着かせる) がある。

- 背景色 黒⇒白
- 布色 水色⇒黄色
- 動画面上にテロップ
- 「もう一度聞く」機能
- 追加・修正

イラスト、テキスト、写真、音声

しつけ

目次へ



もう一度聞く

00:00 / 00:58



置きじつけ (表面)



置きじつけ (裏面)

出来上がり線から0.1mm縫い代側にしつけをする



ミシン縫いする前の「しつけ」は、出来上がり線の0.1cm縫い代側をしつけするとミシン縫いの後、しつけ糸が取り除きやすい。

ミシンをかける前に布がずれないように止めたり (置きじつけ)、仮縫い合わせのときに縫い代を押さえて落ち着かせたり (押さえじつけ)、襷上げなどの折り代を押さえて、作業をしやすくするとき用いる。硬い台の上に布を置き、布がずれないように針を直角に刺して1針ずつすくい、糸がつかないように注意する。

ミシン縫いする前のしつけは、出来上がり線の0.1cm縫い代側をしつけするとミシン縫いの後、しつけ糸が取り除きやすい。

一般に大小の針目で縫い、表面に大きい針目2~3cm、裏面に小さい針目0.2~0.3cmが出るように縫う (一目落とし縫い)。

しつけ縫いには目的に応じて斜めじつけ (裏つきの仕立てに用いられ直線のしつけよりずれにくい) や巻きじつけ (テーラールカラーのラベルや上袴の返り線など、外まわりのゆとりを落ち着かせる) がある。



# 謝辞

本研究の基盤となる「基礎縫い」デジタル教材の製作にご協力いただきました

**武庫川女子大学情報教育研究センター  
電子教材作成支援関係者の皆様**

に深謝いたします